

川路利良 （おほがし） 初代大警視、漢詩人。天保五年五月十一日薩摩國鹿  
 兒島郡吉野村生れ、明治十一年七月十三日歿（八二歳一七九）。通稱正之  
 進。號龍泉。明治七年東京警視廳が創設せられ大警視と拜命。夙い文  
 武兩道に志し、擊劍を長沼四郎左衛門に學べり、直心影流の免許皆傳を  
 受け、重野成齋、水本成美に師事して經書を修め、傍ら詩を學ぶ。歿  
 後詩稿一卷（『龍泉遺稿』明治十四年夏、私家版）を成齋と共に見し  
 る。龍泉松塘は、清秀温雅く、或る作は専門名家に勝ると評した。  
 遺稿はのち、復刻版（昭和五十五年刊）、『現代語 龍泉遺稿』題る  
 大警視川路利良の人物像（肥後精）・曲岡祐共編、平成六年五月  
 『日東京法令出版株式会社』がある。生前の著『警察手帳』（明治九  
 年刊）には、磯天隆吉釋義『警察論語』（一名警察手帳釋義）（大正  
 六年七月廿一日磯天隆吉刊）が出た。



重野成齋 鱧松塘 批 龍泉遺稿 辛巳維夏新鐫 （扉）
--